

学校運営計画				
学校運営方針		自己の可能性にチャレンジし、新しい時代に活躍できる心身ともに健康な人間を育てる。		
昨年度の成果と課題		今年度の重点目標	具体的目標	
<p>&lt;成果&gt;</p> <p>生徒の自己分析や面接練習が実際の進路実現に生かされ、私立大学に2名、専門学校に5名、職業訓練校に6名進学した。また、就職希望者の内定率100%を達成した。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>①基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成</p> <p>②家庭学習の習慣の定着</p> <p>③個人面談を中心にした個々の生徒に応じた進路指導の実施と保護者を対象とした三者面談の充実</p>		<p>基本的な生活習慣の確立</p>	<p>全職員の共通理解のもと、端正な身なり・挨拶・時間厳守等の習慣を身につけさせる。</p>	
		<p>基礎学力及び学習意欲の向上</p>	<p>家庭学習定着のための指導の工夫。生徒一人一人に応じたきめ細かい指導。進学や資格取得を目指し、学校生活に目標を持たせる。</p>	
		<p>希望する進路の実現</p>	<p>進路・学年・保護者間で緊密な連携をして進路指導を行う。進路ガイダンスや大学説明会、企業見学等を通して、有益な情報を提供する。</p>	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価
教務	デザイン・アートコースとキャリアコースに準ずる。			
生徒指導	「あ・じ・み三原則」の定着	<p>“あいさつ”を習慣づけるため全職員からも積極的にあいさつを心掛け、どの場面においてもはきはきとあいさつをできるようにする。</p>		B
		<p>“時間厳守”を意識する。予定を明確にし、授業の遅刻がないようにする。レポートの提出期限を守るよう生徒への声掛けを徹底する。</p>		B
		<p>“身だしなみ”を整える。服装・頭髪について本校生徒の自覚をもたせ、常に心掛けさせる。不定期に検査を行い、チェックをする。</p>		C
進路指導	体系的な進路指導の推進	模擬試験、小論文、面接指導を実施する。		B
	進路情報の迅速な発信	進路資料の精選と提示の工夫に努め、生徒にとってより利用価値の高い進路資料の提示を心がける。		B
	生徒の主体的な進路選択の支援	生徒面談や保護者面談を通じて生徒の適性を踏まえ、一人ひとりに寄り添った進路指導を行い、可能性を引き出す。また、進路ガイダンス等を通して生徒の進路意識を高め、進路実現のために何が必要か考えさせる。		B
保健	健康の維持	生徒が自ら健康課題について考え、判断し、行動できるような実践的な能力や態度を身につけるよう指導と支援に		B

指導		努める。また、様々な機会を通じて、保護者へ啓発する。	
	健康上の課題に対応	心身に、健康上の課題がある生徒の把握を的確に行い、その指導と支援について保護者、家庭との連絡を密にする。  そのため、普段から教職員同士のコミュニケーションを図り、課題に対して適切に対応する。	A
	関係者との連携	保護者・専門機関との情報交換を密にし、連絡体制を形成する。	A
デザイン・アートコース	基礎学力の定着と学力の向上	学習習慣と学ぶ喜びを確かに身に付けさせる。指導・工夫に取り組む。そのための学習環境は適切か。	B
	デザイン・アートに係る感性の涵養	各種展覧会への出品や美術館見学等の機会を多くし、感性を高める。	B
	進路実現のための意識の向上	関連資料の収集・展示と受検機会を確保するための対策として取り組む。	B
キャリアコース	基礎学力の定着	ベーシックにより、基礎学力の定着を図り、課題レポートをきちんと取り組ませる。机間指導を充実させ、生徒とのコミュニケーションを密にし、学習意欲を高める。	B
	校則遵守の意識と責任感の養成	携帯電話の校内での使用ルールについて指導を徹底する。服装・頭髪・アルバイト・運転免許等について校則の周知徹底を図る。	B
	進路実現のための意識の向上	模擬面接や面談などの機会を通してコミュニケーション能力の養成を図る。早期から大学・専門学校等の説明会への参加を促す。	B
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あ」いさつについては、教員は生徒らに積極的に声掛けをするようになった。生徒自身も挨拶を返す者が増えてきている。しかし自ら挨拶ができていない者はまだまだ少ない。</li> <li>・「じ」間厳守については、授業についての遅刻は少なくなっている。先生方の声掛けに感謝したい。しかし、レポート課題の提出期限を守らせることについては、年度末まで提出できない者やレポートそのものを紛失する者などがおり、生徒へ自覚させる必要がある。</li> <li>・「み」だしなみについては、定期的な服装・頭髪検査を行うことはできなかった。一部の生徒に茶髪、ピアス、が改善できない者がおり、年間を通じて指導を繰り返した。また靴のかかとの履き潰しも目立つ。ネクタイが結べない男子生徒、リボンを付けられない女子生徒が多数おり、指導する場が必要かと考える。</li> <li>・進路資料を充実させ、情報を提示することによって、目的意識の早期構築につながる端緒となった。一人ひとりに適合する進路指導を目指すと同時に、生徒の特性をふまえて進路について主体的に考えていけるようサポート体制を整えていく。</li> <li>・健康の維持では、生徒の中では、健康に関心を持ち、質問して実践につなげている者もいるが、全員となると、継続指導が必要である。保護者、関係機関との情報交換は今後も密にしていきたい。</li> <li>・初めての3年次・受検生を前にしながらスタッフが足並みをそろえての取り組み開始が遅れてしまったと反省している。その背景にはスタッフの大学受検に対する経験不足の面が見られたこと。あわせて3年次生の中に最初から大学受検を考慮に入れてない生徒や進路についての具体策を最後まで絞りきれていない生徒が存在し、受検学年という雰囲気醸成に手間どってしまった。</li> <li>・キャリアコースのベーシックでは、基礎的な問題を集中して解くことができた。</li> <li>・専門学校や企業の説明会を校内で行い、1年生のうちから進路を考える場を設けた。</li> </ul>		

※評価は3段階(A・B・C)で行う。